

エンカウンター (ENCOUNTER)

第272号

2024年12月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.wjg.jp>

小西芳之助導源「エペソ人への手紙講解説教」より (6)

聖書の文句が命の綱

聖書の文句というのが、我々の命の綱ですから、我々の信仰といたら、この聖書の言葉を信ずる。そうですから頼りになるものは聖書の言葉です。牧師の説教でもない。牧師の立派な人格でもない。信者の立派な行ない、そんな感心するようなことでもない。結局、われわれが感心しているもの、我々が立派なものと思っているものは、そんなものは消えてゆくものです。そんなものに頼っていたら当てにならない。そんなものは本当の力にならない。

いよいよの場合に、自分がじたばたして本当に腹立ったり、本当に悲しくなったり、本当に人生が嫌になったりするときに力になるものは、聖書の文句です。それで聖書の文句をこうして講義しているのです。

聖書の文句に対する尊敬の心が足りない

しっかり聖書を聴かなければいけない。君らに力がないということは、聖書の文句が分かっていないということです。われわれに人生を渡る力が無いということは、聖書の文句のつかみ方が少ないということですよ。そうですから何十年たっても同じことです。昔と。駄目ですよ、そんなものは。そんなキリスト教はやめた方がよろしい。

我々は、聖書の文句に対する尊敬の心が足りないですよ。この頃のクリスチャンは聖書の文句を尊敬していない。そうですから何十年たっても同じことです。ちっとも人格なり、その人の値打ちというものは向上しとらんですよ。われわれのうちには、その人の前に出たら頭が下がるという信者はおらん。もちろん私もその一人ですよ。

永遠の命の仲介者は伝道者

われわれ信者と言うのは、伝道者の言葉を聴いて信者になる。伝道者というものが土台なのです。伝道者の言葉を聴いて、それを神の言葉と信じて、そして信者になる。ですから伝道者というのは、信仰の先生です。先生という者の言葉を通じて、我々はその言葉を聴いて信者になる。

そしてキリスト・イエスご自身が伝道者、そして伝道者を聴いて信者になった信者の隅の親石という、それを支えているものという。

イエス・キリスト、伝道者が大切ということは、私が信者にならしてもらったのは、伝道者である内村鑑三から福音を聞いた。神の言葉を聞いた。

福音と言ったら贖いのことです。伝道者から贖いを聴く。イエス・キリストの贖いによってわれらは神の子とせられ、神の家族になって永遠の命をもらった。ですから永遠の命の仲介者は伝道者です。いかに伝道者が大切か分かる。真の伝道者が少ない。

贖いがキリスト教の中心、内村鑑三から教わった

よその宗旨の話をご参考に申し上げますと、親鸞が法然に会った時、『高僧和讃』の中に自分の先生のことを、「真の知識に会うことは難きが中になお難し」と言った。本当の先生に会うということは難しい中にも難しいと。親鸞は、最も難しいことだと言った。

私は幸いに内村鑑三に会った。もし私が内村鑑三に会わなかったなら、贖いは分からなかったでしょう。贖いがキリスト教の中心であるということは、内村鑑三に教えてもらった。もしも内村鑑三に会わなかったら、きっと私は、良い行ないをすることぐらいがキリスト教と思っていたことでしょう。しかしキリスト教というものは、贖い、永遠の命をもらうことである。天国へ行って復活することであるということを内村鑑三から学んだ。聖書の文句によって、ロマ書の文句によって。よろしいか。意外なことを内村鑑三は言っているんじゃないですよ。

霊 の 質^{かた}

今日のところ、内村先生の感想文がありますから、ちょっとそれを読みま
す。今日のところに適切でありますから。要するに、これは聖霊によって、
イエス・キリストの霊が働いてわれわれを毎日支えているわけです。…

これは、いつもお勧めしている内村先生の「一日一生」、9月17日。

「パウロのいわゆる『霊の質^{かた}』とは、信者の復活体の始めであって、その核
心とも称すべきものである。信者はこれを受けてすでに復活体の元質を受け
たのである。『霊の質』の成長発達したるもの、それが復活体である。復活体
は死後において奇跡的に上より着せられるものではない。その元質は信者が
信仰状態に入りしその時にすでに与えられしものであって、贖いを信じた時
に、この元質は信者が信仰状態に入る、神の子とせられたという信仰、すな
わち贖いを信じたときにすでに与えられしものであって、死後にその完成に
達する者である。かくして信者の復活は、半ば未来の希望に属し、半ば既成
の事実である」(今日のところは現在形で書いてある。既成の事実です。現在
がそうです。)
「信者は既に復活の元質をにぎる者にして、同時にまた主と共
にその栄光をもって顕われんことを待つ者である。信者はその肉体において、
すでに復活体の種子とその核心とを持つ者である。彼は今すでに復活されつ
つあるものである。」 Present Indicatif, 現在形です。今日の文章は命令形で
もなければ未来でもない。

パウロ先生の手紙の謙遜

いかにパウロ先生が謙遜であられるか。この数節〔エペソ書3章1節—7節〕、日本語ではたくさんの文章に分かれておりますけれども、原語では、1 sentence 一つの文章。パウロと言えば、キリスト教の歴史における最大の伝道者です。そのパウロ先生の手紙がいかに謙遜であるか。パウロ先生のこの文書はいかに謙遜であるかということ、非常に感銘深く読ませて頂きました。

異邦人の果てである我々、パウロが書きましてから 2000 年たっておりますけれども、異邦人のわれわれによって、東京の果てにおいてこのエペソ書が読まれているということは、またパウロ先生がいかにご満足であるかと思えます。パウロ先生が晩年死ぬ前、「自分はイスパニアまで行って、この福音を宣べ伝えたい」と言われたこの熱望が、時きたって 1977 年の 4 月 24 日において、日本国の東京の一角において、この福音がまた述べられているということは、パウロ先生もいかにご満足であるかということをおぼろげに思わざるを得ない。われわれもまた、これを少しく理解する者になりたいのであります。

神の国を継ぐ者とは

「異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあつて、わたしたちと共に神の国を継ぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。」(エペソ書第3章6節)

これが奥義の内容です。これが福音の内容です。異邦人と言えば、これは未信者。未信者が、福音によってイエス・キリストにあつて、わたしたち信者と一緒に「神の国を継ぐもの」、「共に一つのからだ」同じ意味です。「神の国を継ぐもの」、「共に約束にあずかるもの」、同じ意味。「神の国を継ぐ者」と「共に一つの身体」と「共に約束にあずかる」、これは3つとも同じことをくり返して言っている。そういう者になるということです。これが奥義です。これがキリスト教の奥義です。これを知る者を信者と言う。これを知らざるものは未信者です。

神の国を継ぐという者は、永遠の命を頂いて、この世の務めが済んだら神の国へ帰って、そしてキリスト来給う時に、キリストと同じく復活させて頂きまして永遠に神と共に生きる。これを神の国を継ぐ者という。

神の国を継ぐ者となる、それはどうやってなるかということ「福音によりキリスト・イエスにあつて」です。福音というのは、イエス・キリストの贖いによって、自分の罪とが、自分の信仰、自分の行ないというものによらずに、イエスの贖いによって永遠の命をいただく、それが福音の内容です。「福音に

よってイエス・キリストにあって」というのは、すなわち贖いのうちにあつてと言うことです。「イエス・キリストにあって」と言ったら、「イエス・キリストの贖いのうちにあつて」ということです。

奥義・イエス・キリストの贖いによって、永遠の命を頂く

ですからイエス・キリストの贖いのうちにあつて、その贖いの福音を聞くことによりわたしたちは永遠の命を頂く、神の国を継ぐものとなる、永遠の命の所有者となる、ということなのです。これが奥義です。これが福音の内容です。

よろしいか。何年も私は生きておりませんよ。

キリスト教の福音の内容は、奥義というものは、簡単明瞭です。数学的正確さを持っている。自分の信仰、自分の行ないによらない。イエス・キリストの贖いによって、われわれは永遠の命を頂く、神の国を継ぐものとなるということ、これが奥義。

誰でも、イエス・キリストの贖いによって永遠の命を得る

「わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。」(エペソ書第3章7節)

神の力がわたしに働いて、聖霊の力によって、自分に与えられた神の恵み、イエス・キリストの贖いの賜物によって、私は福音のしもべ、伝道のこの職になったのである、僕となったのである。

ここで奥義ということの内容をはっきり知っておいていただきたい。奥義というものは、信者と未信者の区別なく、異邦人とユダヤ人の区別がないということは、このごろの言葉で言ったら「信者と未信者の区別がない」ということです。誰でも、イエス・キリストの贖いによって永遠の命を得ると言うことです。これが奥義の内容です。これがキリスト教の専売特許です。

聖霊によりて、われわれは永遠の命を頂ける

深い信仰を持つとか、良い行ないをするとか、人に親切をするとかいうことは、全ての道徳、全ての宗教に共通している。キリスト教独特の教えというものは、イエス・キリストの贖いによって、われわれは永遠の命を頂戴する、ということです。

われわれは不幸にして、永遠の命は欲しくない。山海の珍味も、食欲のない者にはナンセンスです。われわれはこの世のものが欲しい。イエス・キリストの奥義、キリスト教の専売特許は、「永遠の命を与える」ということです。キリスト教が難しいという理由はここにある。我々には永遠の命を欲しいという食欲はない。人に褒められたい、偉いことをしたい、善行をしたい、我々にはそういうことばかりしかない。そうですから何十年教会に来ていても、キリスト教は分かりません、食欲がないんだから。

これは聖霊によりて、われわれは頂ける。ただ一つの道は聖霊による。人間の努力、人間の善行、人間の信仰、「人間の」と付くものにはよらない。神からの賜物、ギフト、プレゼントです。